

学校法人 高田学苑  
高田短期大学育児文化研究センターだより

# IKUBUN NEWS

第6号 2007.6.15

発行 高田短期大学育児文化研究センター  
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195  
TEL 059(232)2310(代表) FAX 059(232)6317

## 新センター長就任挨拶

センター長に就任し早2か月が経過しました。第4回育児文化研究センター総会も無事終了したものの本年度の事業計画企画の詰めや慣れない文書づくり等の作業や日々の業務をこなしていくのが精一杯の状況です。

育児文化研究センターは、平成16年10月に開設され、2年8ヶ月になります。豊田前センター長および研究員・客員研究員のご尽力により、地域公開事業や出前講座など地域と密着した活動を展開し、地域・行政からの信頼を得て県内に広く根付いてきた感があります。私は、当初より運営委員として活動に関わりその手応えを感じてきたところでもあります。大変未熟ではありますが、今後はセンター長として育児文化研究センターの目的を今一度確認しつつ、今まで築かれた地域からの信用や期待に応え、より活動の質にこだわり、育児文化研究センターの発展に向けて活動していきたいと考えています。



今後とも地域の皆様をはじめ客員研究員の皆様、ご協力ご支援をよろしく申し上げます。

育児文化研究センター長 梶 美保

## 平成19年度重点事業 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト

最近の子どもをめぐる環境は、児童虐待の増加や学校でのいじめ問題の深刻化など、子どもたちが安心して成長できる状況ではなくなってきています。その中で、「明日に向かってたくましく生きていく」子どもたちの発達支援を行うこと、そして、子どもたちを産み育てている親や関係者たちの支援・育児啓蒙を行うことは緊急の課題となっています。そこで、本プロジェクトは、マタニティ女性、乳児、幼児、学童及びそれらの育児・教育に携わる人たちを対象とした各種イベントを実施することにより、子どもの「夢」を育み、子育てをする人たちに愛と勇気をとともに育ち合えるような機会を提供し、子育てに前向きな地域社会づくりに貢献することを目的に企画しました（詳細は3頁）。



新センター長就任挨拶	1頁
平成19年度重点事業 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト	1頁
平成19年度総会報告	1頁
平成18年度事業報告	1頁
組織・研究員	2頁
平成19年度事業計画	2頁
総会特別講演概要	3頁
「子どもの生活リズムを見直す」 廣岡 秀一先生	3頁
定例研究会報告	4頁
平成19年度出前講座のご案内	4頁
研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介 問い合わせ・アクセス	5頁 6頁

CONTENT



## 高田短期大学育児文化研究センター 平成19年度総会(5月8日)概要

## 平成18年度事業報告&lt;平成18年4月～平成19年3月分の実績&gt;

- (1) 運営委員会(9回開催)
- (2) 育児文化研究センター総会(5/12)
- (3) 出前講座(47件)
- (4) 定例研究会(4回開催)
- (5) 育児文化研究センターたより「IKUBUN NEWS」(6月・2月と2回発行)
- (6) 紀要『高田短期大学育児文化研究』第2号 3月発行
- (7) 育児文化研究センターホームページ
- (8) 子どもの「未来」を育む地域プロジェクト事業
  - ・「0・1・2歳児のための『子どもひろば』」0歳児 7/29 10/14 12/2 1・2歳児(7/1 9/9 11/18)
  - ・「親子でかんたん お菓子づくり」(7/29)
  - ・「親子で製作 オリジナルTシャツづくり」(9/24)
  - ・「親子で楽しむカンタンワークショップ」(11/12)
  - ・「秋も保育も真っ盛り 楽しい保育を追いかけよう」(11/18)
  - ・「馬とふれあう親子フェスタ」(11/23)
  - ・「保育者のためのパソコン教室」(12/17)
- (9) その他の行事(地域・団体・行政からの要請を受けて「子育て応援隊」として活動したものです)
  - ・高田保育園夏祭(7/1)(高田保育園主催) ・早ね・早起き・朝ごはん(8/27)(三重県教育委員会主催)
  - ・仏教保育協会本山参詣(9/22)(三重県仏教保育協会主催)
  - ・健康フェスティバル河芸(10/22)(健康フェスティバルかわげ実行委員会主催)
  - ・D社ガス祭り(11/10 11/24 12/1)(企業D社主催) ・Yクリニッククリスマスパーティ(12/12)(民間医療法人主催)
  - ・子育て応援!わくわくフェスタ(1/13)(三重県 みえ次世代育成応援ネットワーク主催)
  - ・うちの技術を伝承します!子どもと本をむすびつける技・子どもの本を広める技(1/13)(三重県教育委員会生涯学習室主催)
  - ・保育者のためのバルーン講座(1/19)(津市私立保育連盟主催)
  - ・わいわい広場2007in サンアリーナ(2/12)(三重県営サンアリーナ主催)
  - ・「三重のまちかど博物館まんなか博覧会」と「一身田の春祭り」(3/18)
- (10) センター後援・共催事業
  - ・「親子の絆づくり・育児力育成支援事業」(お産・子育て環境を考える会みえ)
    - 親子の絆づくりを育む「ホリスティックアロマ ベビーマッサージ」(1クールめ9/2・9/16・10/7 2クールめ10/21・11/4・11/11)
    - 親と子のための音楽あそびひろば～楽しい音楽あそびとコンサート～(8/20 3/21)
  - ・「子どもパソコン教室」(情報ボランティアみえ主催)(8/7 8/8 12/16)



詳細は、高田短大HPの育児文化研究センター活動内容をご覧ください。

## 平成19年度運営委員

梶 美保(育児文化研究センター長) 福西 朋子(主任研究員) 豊田 和子 千草 篤磨 榊原 尉津子

## 平成19年度組織

センター長	梶 美保
主任研究員	福西 朋子
研究員	市田敏之 植木存 梶美保 栗原廣海 榊原尉津子 武川眞固 千草篤磨 豊田和子 内藤由佳子 長岡さとみ 橋本景子 平田祐子 福西朋子 三宅啓子 望木郁代 山本敦子 わけびき真澄 鷲尾敦(以上、本学専任教員)
客員研究員	安藤はるみ 池上綾子 糸川京子 今吉久美 岩附啓子 浦中浩一 大蔵香代子 川喜田多佳子 川村きみ子 北端一子 駒田聡子 鈴木照美 田口鉄久 田中厚好 朴恵淑
顧問	櫻井實(三重大学名誉教授、医学博士) 谷岡経津子(四日市大学総合政策学部教授) 太田和子(前三重県国公立幼稚園長会会長、四日市市立楠北幼稚園長)

平成19年度事業計画<平成19年4月～平成20年3月>

- (1) 総会 5月8日(火曜日) 16:30～  
特別講演 講師 廣岡秀一先生(三重大学教授 社会心理学)「子どもの生活リズムを見直す」
- (2) 定例研究会 年間4回 7月10日、9月11日、12月19日、2月20日
- (3) 出前講座 年間随時 37分
- (4) ホームページ 活動の「お知らせ(ポスター)」、「活動内容」を随時掲載
- (5) IKUBUN NEWS 2回発行(6月・2月)
- (6) 紀要「高田短期大学育児文化研究」第3号 年間1回(3月)刊行
- (7) 企画事業



その1 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト(独立行政法人医療福祉機構助成事業)

子どもの夢を育む絵本の読み聞かせ 6/30 9/8 1/19

講師: 安藤はるみ客員研究員 岩附啓子客員研究員

場所: 本学育児文化室

子どもの夢を育む親子クッキング

6/30 鷲見裕子 高田短期大学人間介護福祉学科専任講師

10月 駒田聡子客員研究員

場所: 本学調理室

子どもの夢を育む児童館・学童保育指導員のためのセミナー 7/10

講師: 豊田ひさき 中部大学教授(教育学)

場所: 安濃公民館

子どもの夢を育む親子のための音楽あそびひろば 3/20

講師: 福西朋子研究員 木下和美(高田短期大学非常勤講師) 杉浦加奈子(保育士)

場所: 三重県総合文化センター三重県文化会館第1リハーサル室

子どもの夢を育むマタニティコンサート 10/20

演奏者: 岡田育代(ソプラノ歌手) 井澤章典(テノール歌手) 寄藤佳織(ピアニスト)

穂積洋子(バイオリニスト) 増田久美子(コーディネーター)

場所: 鈴鹿文化会館けやきホール

子どもの夢を育む子育て支援講演会 2/9

講師: 園田雅春 大阪教育大学教授(教育学)

場所: 芸濃総合文化ホール

子どもの夢を育むパルーン教室 8月 12月

講師: 梶美保研究員 石渡由佳(保育者)

場所: 地域公民館等



その2

0・1・2歳児こどもひろば 場所: 育児文化室

0歳児 6/23 9/29 11/10

講師: 梶研究員 今吉久美客員研究員

1歳児 7/28 10/13 12/15

講師: 榎原尉津子研究員 山本敦子研究員

保育者のためのパソコン講座 12/16

講師: 川喜田多佳子客員研究員 場所: 本学PC2教室

馬とふれあう親子フェスタ 11/23

場所: 高田短期大学構内 馬場



(8) 「子育て応援隊」派遣事業 随時

(9) 共催事業

乳児の心を育てるベビーマッサージ事業 梶美保研究員企画

保育者対象: 伊賀市・鈴鹿市・桑名市で3回開催

親子対象: 桑名市6回開催 5月～12月

子どもパソコン教室 鷲尾研究員企画

子ども20～30名 6月～1月(5回)

津市中央公民館、地域情報センターと本学PC教室 など



## 総会特別講演

## 子どもの生活リズムを見直す

講師 三重大学教育学部教授 廣岡 秀一先生

平成 19 年 5 月 8 日(火) 平成 19 年度の総会后 17:00 より 18:30 分まで三重大学教育学部教授の廣岡秀一先生による「子どもの生活リズムを見直す」というテーマで特別講演がありました。講演は、子どもの生活リズムと日常生活における心理状態との関係を検討するもので、大変興味深い内容でした。次に内容の一部を紹介します。

四日市市「子どもの生活リズム向上」実態および意識調査研究報告より



文部科学省では、「早ね早おき朝ごはん」運動を関連機関と連携して進めています。四日市市では現在、モデル校中心にこの運動に取り組みはじめ 3 カ年かけて全市に広げる計画を立てています。今回はその運動の効果

を調査・検証する「調査研究事業」として文科省が四日市市教育委員会に委託し、廣岡先生が実際に調査研究にかかわられました。調査は四日市市の小・中学生を対象に「早ね早おき朝ごはん」という整った生活リズムと日常生活における心理的状态との関係を検討するという目的で行われました。調査内容は「ふだんの生活についての調査」として家での過ごし方、今の悩みごと、ふだんの気持ちや感じていることなどと「生活リズムチェックシート(5日間)」により就寝・起床時刻、朝ごはんの有無、栄養の摂取、朝ごはんと一緒に食べた人数などで、7月と12月の2回にわたって調査されました。この結果から子どもの「疲労感」「家族コミュニケーション」「自己効力感」などについて導きだし2回の結果を比較し考察することで学校における「早ね早起き朝ごはん」運動の効果について検討されました。調査結果をまとめると、朝ごはん・睡眠行動に関するデータにはさほど変化がない(むしろ低下している傾向)朝ごはんを食べていることと、睡眠習慣には大きな関連がある12月のほうが悩み事は少なくなっている12月のほうが疲労感が低い12月のほうが不安感が低い12月のほうが暴力・いらだちが低いということでした。



調査結果の考察 ～社会心理学の見地から～

結果からは期待したような効果が現れたとはいえないが、確かに運動を行った効果はあったと断言する、とのことでした。社会心理学の背景から考えると、学校というコミュニティが共通した運動を行ったということでムードが変わりモチベーションが変わったのではないかと、そしてこのムードの盛り上がり子どもに何らかの影響を与えたのだろう、と考察されました。医学的、生物学的な理解を深めることよりも、例えば先生が生徒に「朝ごはんを食べると になれるよ」などのポジティブ・コミュニケーションでもってかわりポジティブ・ムードを引き起こすことが大切である、つまり「ポジティブなフレーミングで活動を展開すること」が実態をかえていくことにつながっていく、と認知心理学におけるフレーミング効果を交えて話していただきました。

その他にフロアーとのやりとりから、朝食を「食べる、食べない」が何かを決めるのではなく家族のムードが決めている、人とコミュニケーションをとることは脳に刺激を与えているが人と食事をするということもそれを活性化させるものとなり心の健康をつくっている、という話もありました。

今回の講演から、子どもへの大人、家族、コミュニティのかかわり、コミュニケートのしかたが子どもの生活に大きく影響してくることを改めて強く認識しました。

ご多忙の中、大変有意義なご講演をいただき、ありがとうございました。満場拍手

## 定例研究会報告(第14回)

第14回目の研究会が平成19年2月13日(火)16:30から高田短期大学第4会議室にて行われました。今回は望木郁代研究員がレポーターで、テーマは「子どもへの言葉かけ～カウンセリングの立場から～」でした。

内容は、小・中学生の子どもをもつ保護者と、子ども自身に、おとなから子どもへの言葉かけについての調査を行い、実際にどのような言葉かけがされているのか分析し、子どもの心にそった言葉とはどのような言葉であるのか、「クライアント中心療法」「認知行動療法」「ブリーフ・セラピー」「交流分析」の4つのカウンセリングの立場から検討する、というものでした。

## 平成19年度出前講座のご案内

地域貢献事業の一つとして、県内各地の研修会や学習会などの出前講座や講師派遣に応じます。平成19年4月～平成20年3月分の企画は以下のとおりです。ご活用ください。 お問い合わせ先 高田短期大学育児文化研究センター .059 - 232 - 2310 (内線123) <電話応需時間 月曜日と水曜日の9:00 - 12:00> メールアドレス ikubun@takada-jc.ac.jp

No.	講座内容(テーマ)	(内 容)	(対 象)	氏 名	担当時期	担当地域
1	幼い子どもの遊びの発達と大人のかかわり	乳幼児の遊びの発達と、それに見合った大人のかかわり方について学習します。	家庭教育教室、子育て支援団体	豊田和子	要相談	県内全域
2	子どもの見方と保育者の援助について	遊びの中で、あるいは生活場面で一人ひとりの子どもとどう考え、見直しのある保育者の援助について学習します。	幼稚園、保育園の職員			
3	幼児のリトミックあそび	「幼児の身近な事象や経験をテーマにしたリトミック遊び」の体験と教育方法	幼稚園・保育園(所)の職員	三宅啓子	要相談	県内全域
4	子どもの歌あそび	楽しいコミュニケーションと表現遊びの体験学習	幼児教育関係者・幼児及びその親			
5	障害児保育について	各種障害の理解、発達段階に応じた保育 等	保育関係者、保護者	千草篤磨	要相談	北勢・中勢・南勢
6	子どもの人権と児童虐待	子どもの最近の状況と社会情勢を把握しつつ、子どもの権利条約・人権宣言をふまえて、児童虐待及び体罰を考えたその救済方法を探ってみる。	保育関係者・保護者	武川真由	土曜日(要相談)	北勢・中勢地区
7	憲法のこころと子どもの人権	日本国憲法のこころ(精神)をわかりやすく読み、憲法がめざす子どもも親も考え、子どもの人権の現状をふまえて、なぜ子どもの最善の利益が優先され、保護されなければならないのかを考えてみる。			土・日曜日(要相談)	
8	電子絵本作り	子どもが楽しめるマルチメディア電子絵本の制作の方法について学び、簡単な作品を作る。	幼稚園・保育園等の関係者	鷲尾 敦	要相談	中勢・北勢地区を中心に
9	園のホームページ制作	題材を園の情報発信として、ホームページの制作方法から公開までの知識と技術を学ぶ。				
10	子どもパソコン教室	発達段階に応じた子ども向けのパソコン体験教室。基本的に何かを制作することを通して、コンピュータリテラシーを身につける。	小学生低学年、高学年、中学生			
11	仏教の根本理念と保育	あらゆるいのちの平等を知り、お互いに慈しみあふれ合っていかなければならないということの根拠を考え、保育の根本精神は「縁起、にあることを伝えたい。	保育者、保護者	栗原廣海	要相談	北勢・中勢・南勢
12	保育と観察(かんざつ)	人間のもの見方、考え方の問題点を明らかにし、子どもを見る目について考えたい。	保育者、保護者			
13	拝むといふことと祈るといふこと	「のさま」に子どもと共に手を合わせ拝むことの意味を、「お祈り」と比較して考えたい。	保育者、保護者			
14	0・1・2歳児の発達と子育て、保育	0・1・2歳児の発達のすじみちと、具体的な子育ての技術、大切にしたい子育てのポイント等。	保育者、保護者	梶 美保	要相談	県内全域
15	乳幼児の事故予防	乳幼児の事故の実態とその予防、具体的な応急処置(心肺蘇生法など)等。				
16	赤ちゃんと絆づくりとベビーマッサージ	乳児へのかかわりとして大切なことの話とベビーマッサージ	保護者、一般			
17	知的障害(児)者とその家族への相談援助	障害者の福祉サービスにかかる支援の実施主体が市町村に移されたが、当事者の思いや願いに向かい合う相談支援の体制づくりの課題の達成は急務である。相談支援の職員を養成することもまた大事な課題である。	市町村障害福祉関係職員、民生委員、児童委員など	植木 存	要相談	要相談
18	子育てで不安と子育て支援	子育てで不安の社会的広がりや現代の家族問題を福祉の視点から見つめるとともに子どもの背後にある親の生活の全体性を理解しながら子どもの最善の利益について考える。	市町村保育担当者、保育所関係者、民生委員、児童委員など			
19	親子で楽しむ ふれあいあそび	家庭でできるふれあいあそびを楽しみましょう。	幼児とその保護者	榎原副津子	要相談	県内全域
20	親子で楽しむふれあい歌あそびとミニコンサート	歌あそびを通して親子でふれあったり、生の音楽を聴いたりして、楽しい時間を過ごしましょう。	幼児とその保護者(20組程度)	福西朋子 山本敦子	8月、9月、2月、3月の平日(要相談)	中勢地区
21	各種ワークショップ(造形関係)	シルクスクリンによるTシャツ作りや竹細工、各種工作、造形活動全般。	年長児以上とその保護者	わけびき 真澄	要相談	県内全域
22	子どものこころとカウンセリングマインド	子どもの関わりでちょっとした大切なことに気づきましょう。	保育者・保護者	望木郁代	要相談	県内全域
23	家庭の日常生活に於ける子育て	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている子育てについて。	乳幼児をもつ母親、父親	池上綾子	要相談	県内全域
24	集団生活としての幼児教育・その具体的実践	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている保育園・幼稚園における教育について。	保育者全般			
25	子どもと共に創り上げる保育	今の子どもたちは躍動感あふれる体験が必要、ドキドキワクワク、おもしろさを追求した保育実践。	幼稚園教諭、保育士	岩附啓子	要相談	要相談
26	私の出会った絵本	絵本は何を物語っているか、絵本と文から絵本の魅力を探る。	幼稚園教諭、保育士			
27	英語コミュニケーションの基礎	歌やチャントを通して、英語のリズムに慣れる。ゲームとジェスチャーで英語コミュニケーションを図る。1行～3行会話でコミュニケーション。	小・中学生	大蔵香代子	要相談	県内全域
28	家庭でのしつけ	親と子のかかわりについて。	乳幼児をもつ保護者	川村きみ子	要相談	北勢・中勢・松阪地区(要相談)
29	「造形あそび」による造形指導法	だれもが楽しめる描画造形技法とその指導法。	保育園・幼稚園・小学校の指導者(幼児など参加可能)	田中厚好	4月～12月(1～3月でも可能)	県内全域(北勢・中勢地区中心)
30	子どもの心、現代の子育てのあり方について	子育てで迷っている大人(先生や保護者)への一助となればと思っています。スクールカウンセラーの経験を活かし。	保護者、幼・小・中の教員、保育士	橋本景子	要相談	県内全域
31	環境教育(誰が取り組める実践的環境教育)	身近な環境問題(大気汚染、水質汚染、ごみ問題)について講義または簡単な野外実験を行う。	保育園・幼稚園・小学校・中学校	朴 恵淑	要相談	中勢・松阪地区
32	NPO活動(身近な環境活動)	地域での環境問題への取組のできるNPO活動のあり方について講義。	一般市民・大学生・高校生			
33	実践的国際交流(民間レベル)	国レベルではなく、民間レベルで可能な国際交流について一緒に考え、実践的な取組可能なことから始める。	小学校・中学校・高校・大学・一般市民			
34	保育実践研究	保育内容、保育指導(援助)のあり方検討。	幼稚園教諭、保育士	田口鉄久	要相談	県内全域
35	就学前教育・保育をめぐる課題	保・幼・小の連携、保護者・地域との連携などについて考える。	幼稚園教諭、保育士			
36	うたって・おどってあそぼう! 実技	楽しい保育、元気の出る保育、体を動かしたものを目的としたもの(パネルシアターなど)。	保育士、教諭、保護者(幼児)、保育者を目指す学生	浦中こういち	土・日(要相談)	特に指定なし
37	ふれあい遊び	体と体のふれ合いを通して、今しかできない音楽などを通してのふれあい遊び。	保育士、教諭、乳幼児(保護者も一緒に)			

研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

神原 尉津子研究員（活動紹介）

センター開設当初から、運営委員として係わらせていただいています。そして、センター事業として定着しております「0・1・2歳児のための『子どもひろば』」では、事業担当者兼講師として活躍の場を与えていただき、子育て中のお母様や元気いっぱいのお子様と楽しい一時を過ごさせていただいております。短い時間ではありますが、今年も『子どもひろば』でしかできないあそびを企画して、楽しんでいただこうと張り切っています。



その他、出前講座「親子で楽しむ ふれあいあそび」への依頼を多数いただいております。子どもたちとの出会いと交流を楽しみに県内各地を訪問させていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

岩附 啓子客員研究員（活動紹介）

今までの私の活動としては、母親対象の出前講座や保育者向けのミニ講座、絵本ワールドへの参加などがあります。少しでもお役に立つことができるならばと微力ながらお手伝いさせていただくことができました。残念ながら今の子どもたちを取り巻く環境は劣悪で夢や希望を描くことが困難な状況です。こんな時代だからこそ、子どもの健やかな成長を願って、みんなで手を携え交流の輪を広げていくことの大切さを痛感しています。



今年度は「子どもの夢を育む地域支援プロジェクト」事業計画の一つとして、絵本の読み聞かせを担当する機会を与えて頂きました。子どもやお母さんとの新たな出会いに胸ときめかしつつ、絵本を紹介して楽しい親と子の触れあいの場になればいいなと願っています。

長岡 さとみ研究員（新入会）

0歳をのぞいた1～14歳の子どもの死因の第1位は「不慮の事故」となっています。この状況は1960年以降、現在までまったく変化がみられません。尊い子どもの命を守るのは大人たちです。看護の臨床経験を生かし、子どもの事故防止などに関する活動ができればと思っています。



また少子高齢化が進む中、お元気な高齢者の方にも子どもを守る手助けをしていただける橋渡しができればと考えておりますので、よろしくお申し上げます。

平田 祐子研究員（新入会）

本学のオフィス情報学科に所属しておりますが、今春より研究員として着任致しました。専門領域は、人と人が相互理解を深めるために必要なコミュニケーションです。他者との円滑な人間関係を築くためには不可欠なものです。親と子どもがお互いに理解して子どもが健全に成長していくためにも重要な役割を担うものです。私事ながら、双子の母として学んできたこともございます。



これらを踏まえて、育児文化センターの発展のために少しでもお役に立つことが出来れば幸いです。何卒、宜しくお願い致します。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター  
 住所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195  
 Tel (059)232-2310  
 Fax (059)232-6317  
 高田短期大学 内線 123 番  
 Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



編集後記  
 新センター長のもと、平成十九年度事業が始まりました。また、新しい風が吹きそよな予感がします。本年度もたくさんの方との出会いを大切に、その出会いが人と人とのつながりとなって大きな輪ができますように。(T・F)